

【交通事故による救急統計について】

郡山地方広域消防組合管内では、過去5年間（2019年から2023年）に5,141人が交通事故により救急搬送されています。

特に春は年度初め、また新生活の始まりなどの影響により交通事故による救急事案が増加する傾向にあることから、これらの事故を未然に予防するため、以下のとおり救急統計をまとめましたのでお知らせします。

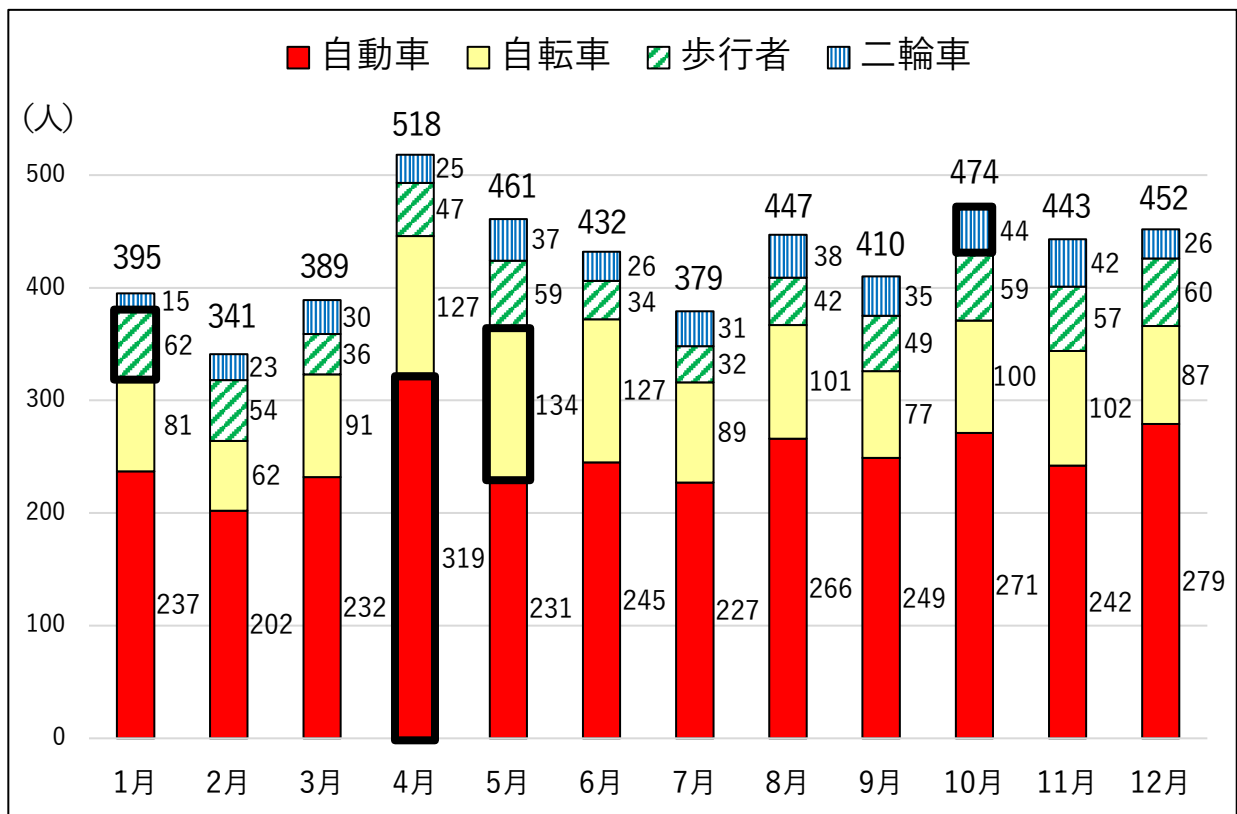
※ 交通事故によって救急搬送された方の事故に遭った際の移動形態を、「自動車」「自転車」「歩行者」「二輪車」の4種類に分類し統計化しています。

※ 小数点を含むものは、小数第二位を四捨五入した数値で表記しています。

■ 月別の救急搬送人員

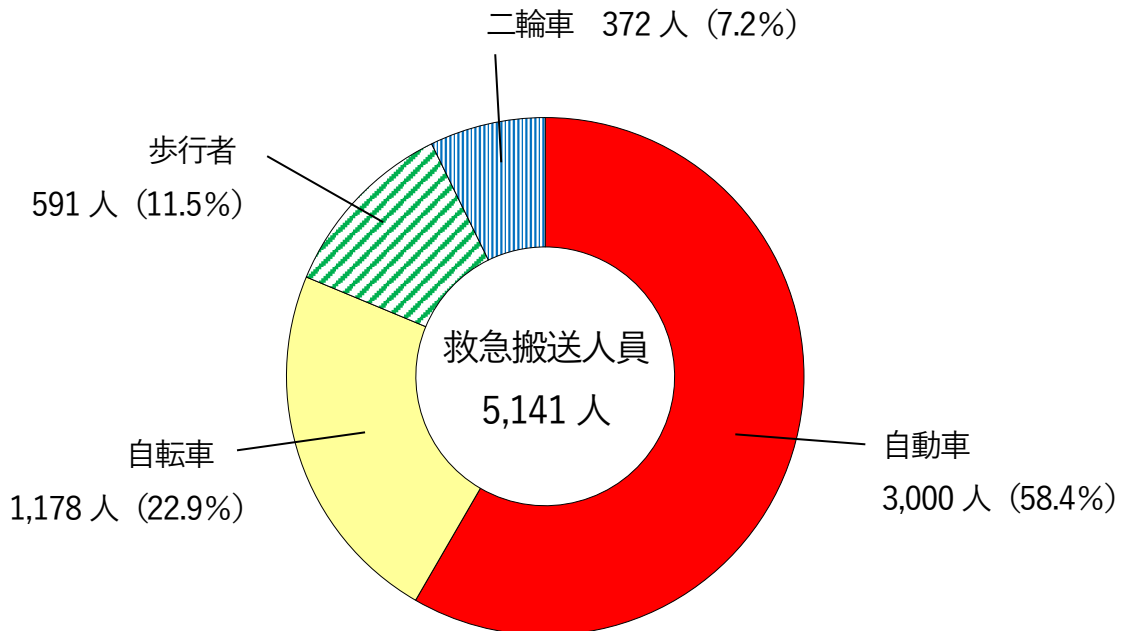
月別の救急搬送人員をみると「4月」が最も多く518人、次いで「10月」が474人、「5月」が461人と続きます。

移動形態別にみると、「自動車」は4月が最も多く、次いで12月、10月と続きます。「自転車」は5月が最も多く、次いで4月と6月が同数で続きます。「歩行者」は1月が最も多く、次いで12月、5月と10月が同数で続きます。「二輪車」は10月が最も多く、次いで11月、8月と続きます。



■ 移動形態別の救急搬送人員

全体の救急搬送人員を移動形態別にみると、「自動車」が最も多く3,000人(58.4%)、次いで「自転車」が1,178人(22.9%)、「歩行者」が591人(11.5%)、「二輪車」が372人(7.2%)と続きます。

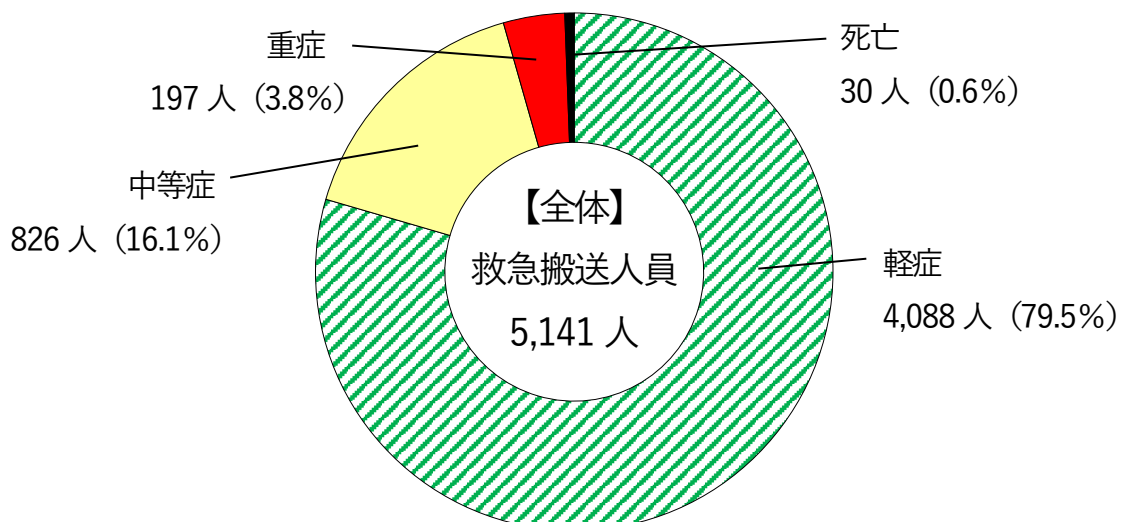


■ 傷病程度別の救急搬送人員

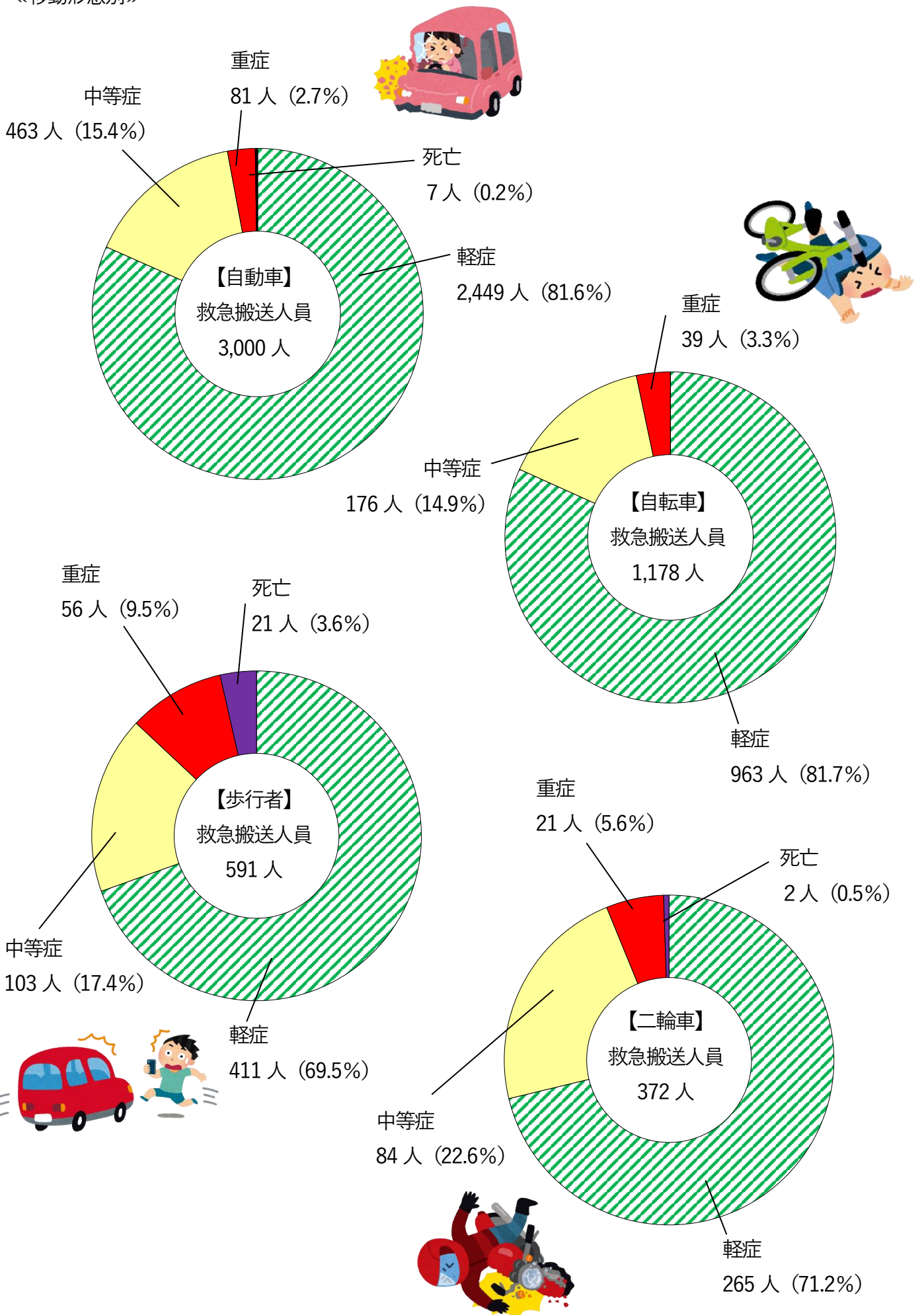
交通事故による救急搬送人員を傷病程度別(救急隊が医師に引き継いだ初診時のもの)にみると、「軽症」が最も多く4,088人(79.5%)、次いで「中等症」が826人(16.1%)、「重症」が197人(3.8%)、「死亡」が30人(0.6%)と続きます。

移動形態別にみると、「自動車」や「自転車」に比較して、「歩行者」や「二輪車」で入院を必要とする「中等症」「重症」の割合が高いことが分かります。

※「軽症」とは、傷病の程度が入院加療を必要としないもの。「中等症」とは、傷病の程度が入院を必要とするもので重症に至らないもの。「重症」とは、傷病の程度が3週間以上の入院を必要とするもの。「死亡」とは、医師の初診時において死亡が確認されたもの。



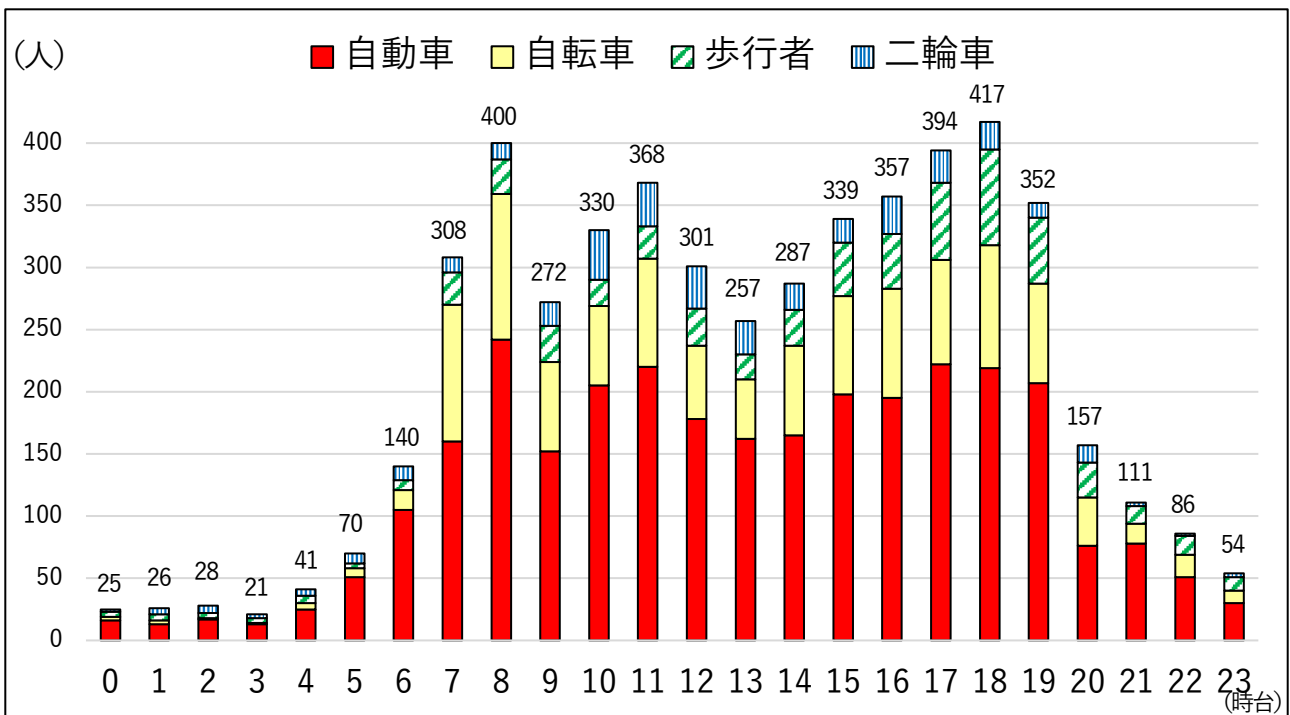
《移動形態別》



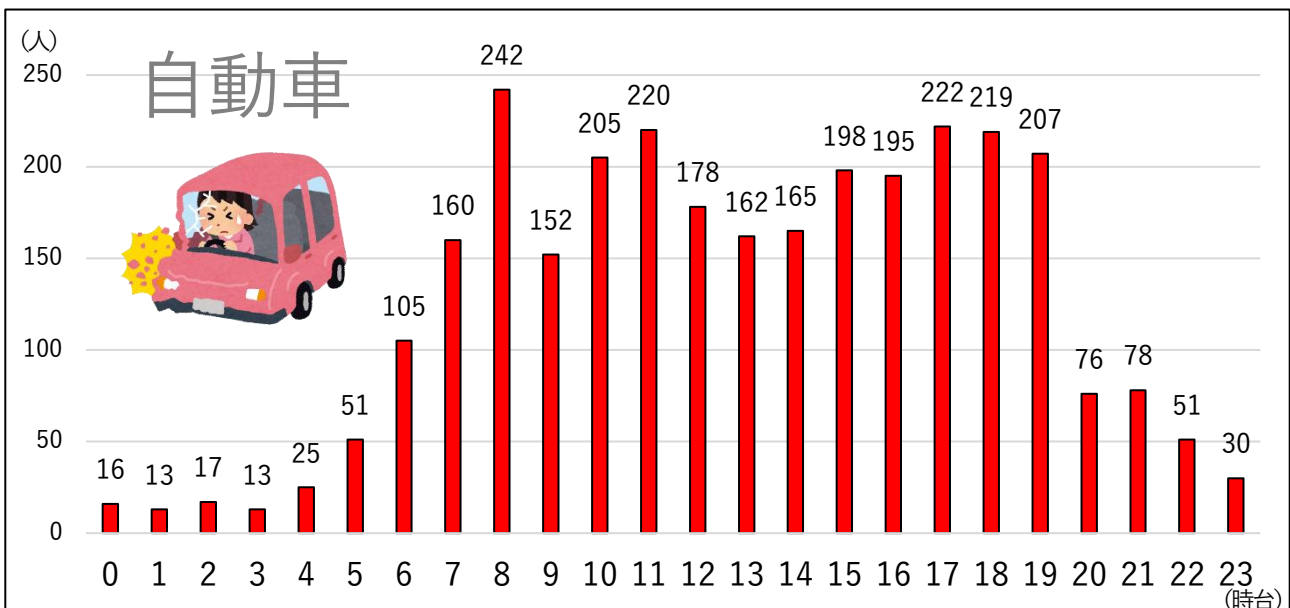
■ 時間帯別の救急搬送人員

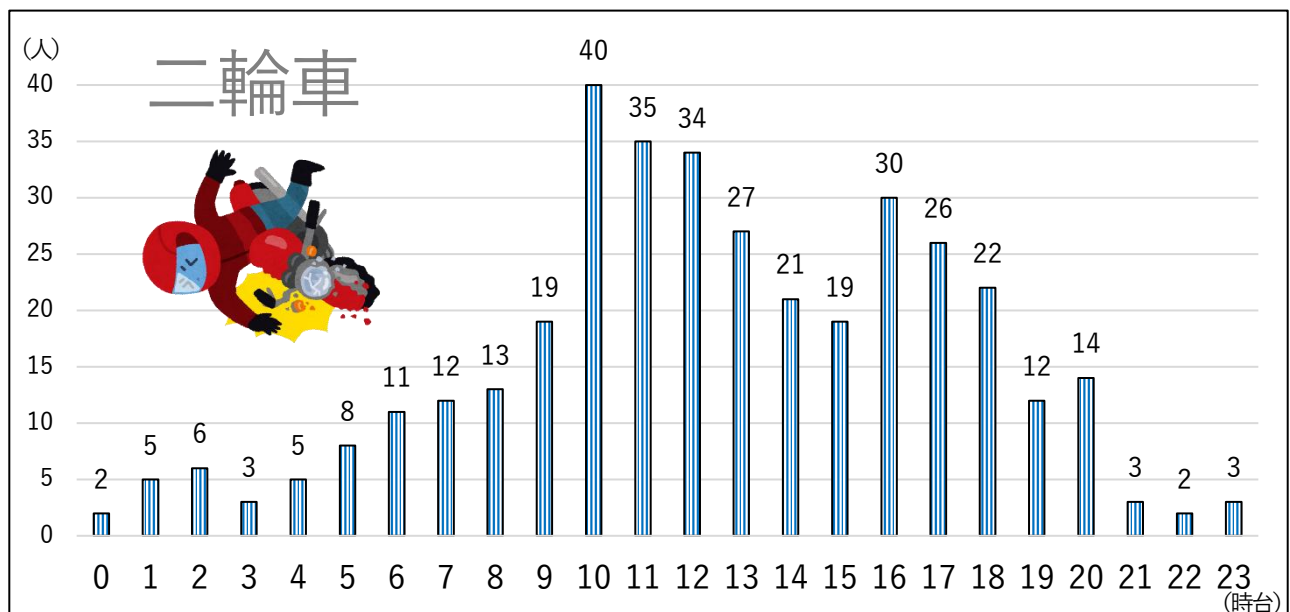
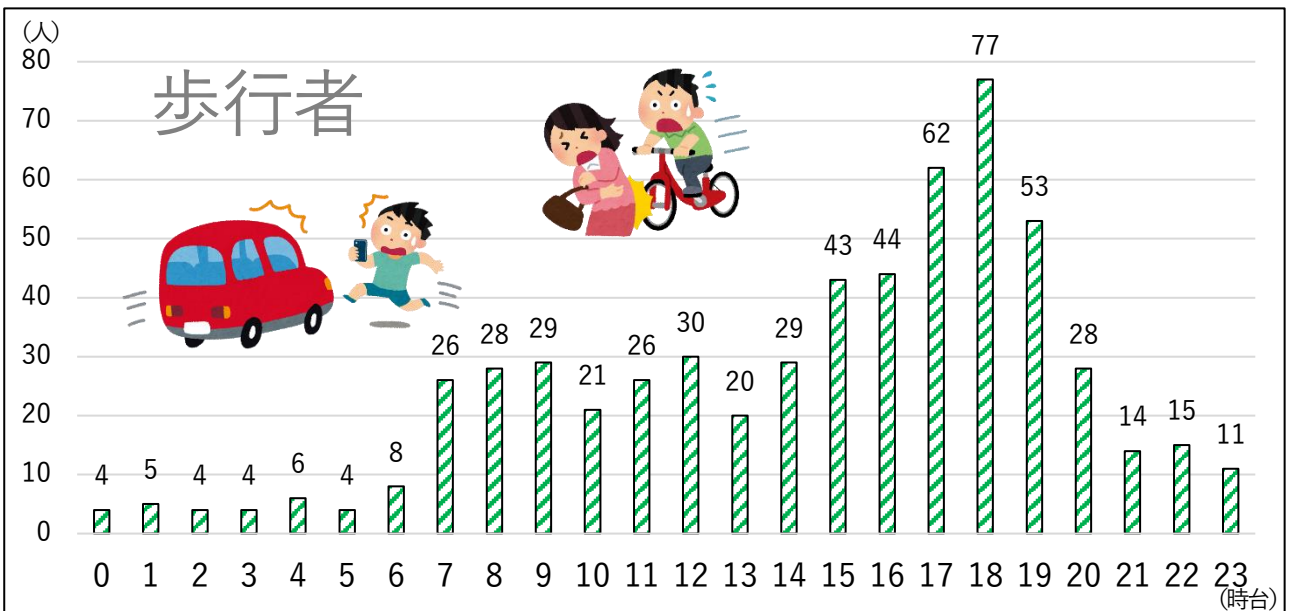
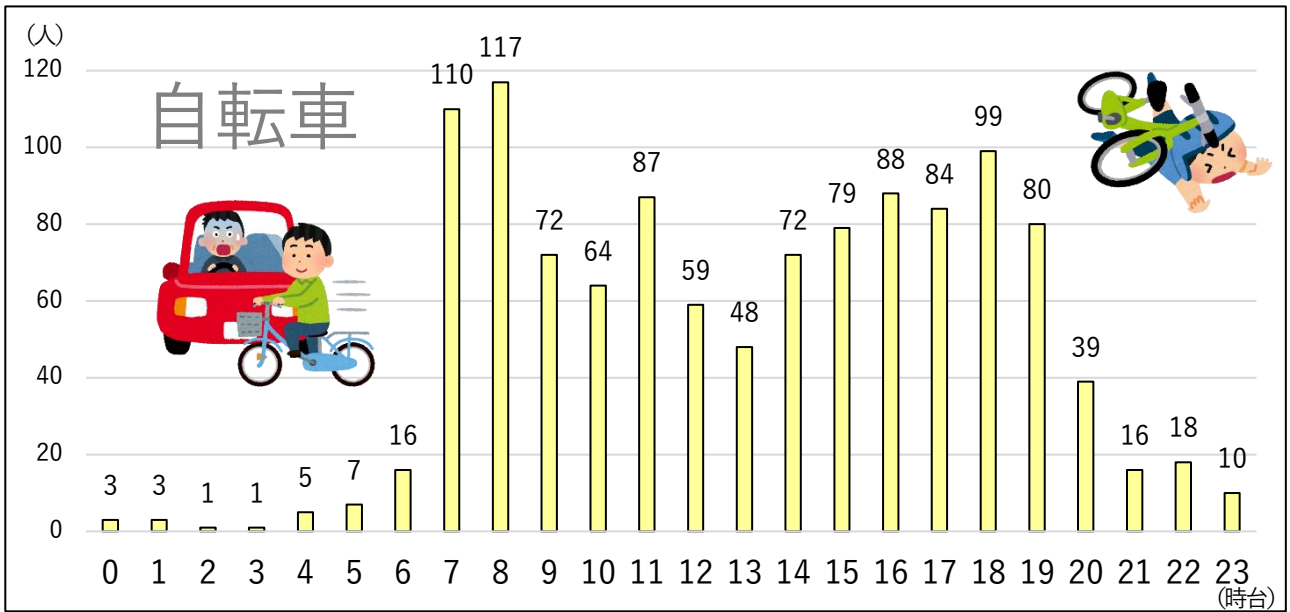
時間帯別の救急搬送人員をみると、朝の通勤・通学の時間帯、お昼前の時間帯、夕方の時間帯の3つがピークとなるグラフとなり、それぞれ人の移動が多い時間帯に交通事故が多く発生していると推測されます。

移動形態別にみると、「自動車」「自転車」は8時台が、「歩行者」は18時台が、「二輪車」は10時台がそれぞれ最も多く、移動形態によって多く発生する時間帯が異なります。



《移動形態別》

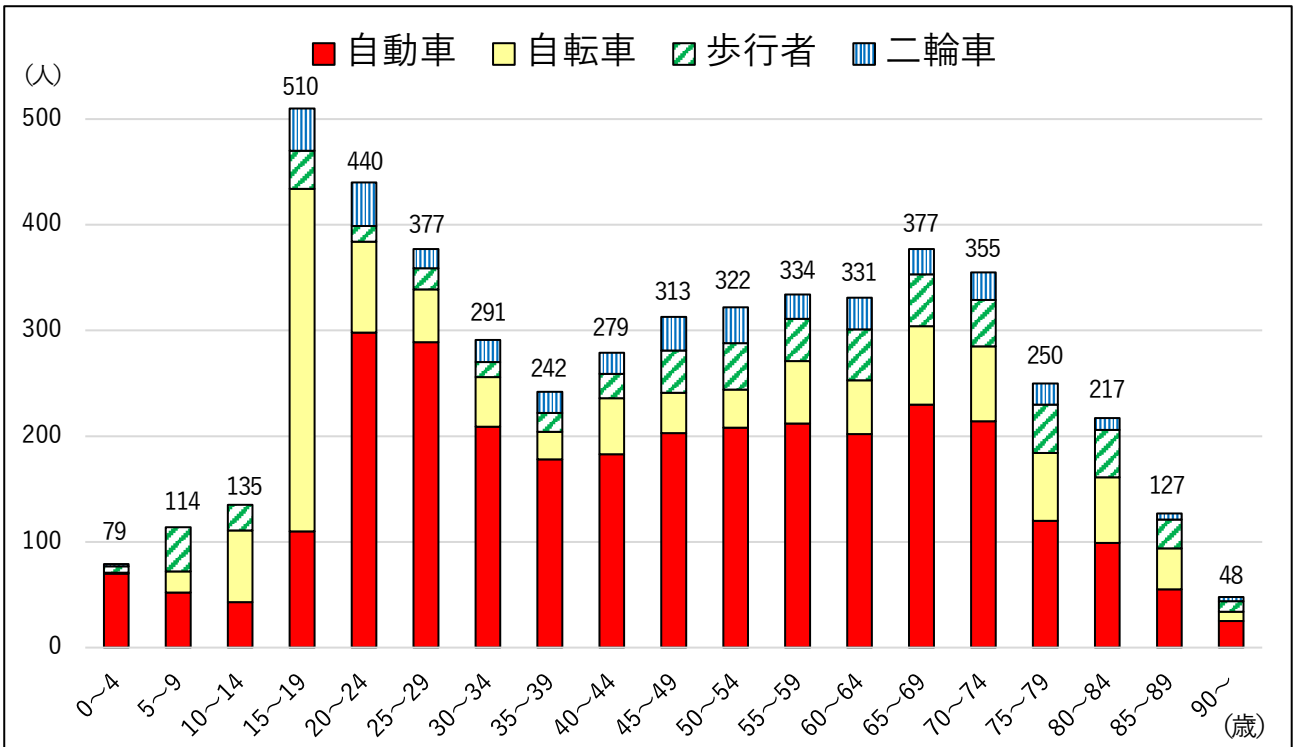




■ 年代別の救急搬送人員

年代別の救急搬送人員をみると、「15歳から19歳」が最も多く510人、次いで「20歳から24歳」が440人、「65歳から69歳」が377人と続きます。

移動形態別にみると、「自動車」「二輪車」は「20～24歳」が、「自転車」は「15～19歳」が、「歩行者」は「65～69歳」がそれぞれ最も多く、移動形態によって発生年代のピークが異なることが分かります。



《移動形態別》

